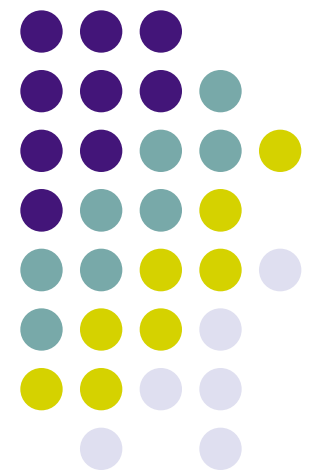


方言調査 8

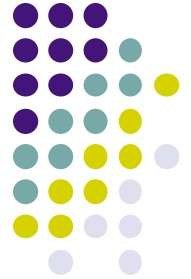
サンフランシスコ州立大学／国立国語研究所
南 雅彦





方言調査再訪

- マクドナルド、関西ではなぜ「マクド」？
(日本経済新聞大阪夕刊いまだキ関西2012年1月25日)
- 全国の高校生と大学生を対象に2010年に実施した調査があった。このうち「マクド」という略称を使う人の割合が60%以上だったのが大阪、京都、兵庫、奈良、和歌山の関西の5府県。中四国のほか、関東や東北、北海道などにも「マクド」派はいた。永瀬教授は「関西から言葉が広がった可能性があります」と分析する。
- ただ前回の05年の調査と比べてみると、北陸など近畿周辺で「マクド」派が少なくなっている。関西でも若い世代や東京に勤務した経験のある関西人の間では「マック」派がじわじわ増えているようだ。全国的には「マック」派が主流だ。
- 関西というコミュニティーのまとまりが希薄になり、関西でも若者を中心に共通語としての「マック」を自然に使う人が増えているのではないかと真田教授はみている。

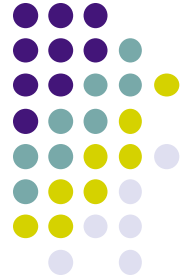


若者語の4分類

	若者が老いて不使用	若者が老いて使用
後の若者不使用	一時的流行語 ○ 新語 ○ 時事用語 ○ はやり言葉	コーホート語 ○ 生き残った流行語 ○ 世相語
後の若者使用	若者世代語 ○ キャンパス用語 ○ 学生用語	語形変化 ○ 新方言 ○ 確立した新語

言語変化の起こる理由

1. 発音労力の軽減(省力化)



同化(assimilation)

ある音素Xが、近接する音素Yの影響により、Yの特徴を共有したY'異音Y'として実現するという音韻過程(連濁もその一例)

- **順行同化** (progressive assimilation): 同化の環境を構成するYがXに先行する場合 /...YX.../ → [...YY'...]

liked /laik+d/ → [laikt]

死んだ /ʃin+ta/ → [ʃinda]

できひん /deki+hen/ → [dekihin] (大阪では[dekehen])

- **逆行同化** (regressive assimilation): 同化の環境を構成するYがXに後続する場合 /...XY.../ → [...Y'Y...]

稲作 /ine+saku/ → [inasaku]

買った /kaw+ta/ → [katta]

でけへん /deki+hen/ → [dekehen] (京都では[dekihin])

けえへん /kiya+hen/ → [kiehen] → [ke:hen]

書けへん /kaka+hen/ → [kakehen] (京都では[kakahen])

かめへん /kama+hen/ → [kamehen] (京都では[kamahen])

しゅむ(染む) /shi+mu/ → [shumu]

同化(assimilation)

でき	ひん	○
でけ	へん	○
でき	ない	○
でけ	ひん	×

順行同化

逆行同化

影響により、Yの特徴を共有した

韻過程(連濁もその一例)

assimilation): 同化の環境を構成す

/X.../ → [...YY'...]

liked /laik+d/ → [laikt]

死んだ /ʃin+ta/ → [ʃinda]

できひん /deki+hen/ → [dekihin] (大阪では[dekehen])

- 逆行同化(regressive assimilation): 同化の環境を構成するYがXに後続する場合

稲作

/i/ 歯がシミるのを防ぐシュミテクト

買った

/k/

でけへん

/c/

けえへん

/e/

書けへん

/k/

かめへん

/k/

しゅむ(染む)

/s/

知覚過敏予防: 硝酸カリウムがカリウムイオンと
なって歯髄神経のまわりにイオンバリアを形成し
、知覚過敏による不快感や痛みを防ぎます。効果
が感じられるまで1~2週間お使い下さい。使用
を止めると再びシミ始めるおそれがあります。症
状の予防に継続的な使用をお薦めします。



歯がシミるのを防ぐシュミテクト: 日本以外では、Sensodyne(センソダイン)のブランド名で販売され、日本では第一位のシェアを占めている歯磨剤



言語変化の起こる理由

1. 発音労力の軽減(省力化)

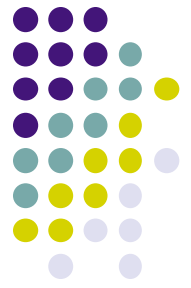
- 大阪方言:エ段への同化が起こった「ケーヘン」「イケヘン」(逆行同化) ke:←hen ike←hen
- 京都方言:イ段への同化が起こった「キーヒン」(順行同化)ki:→hin

2. 元来、複雑であった言語体系の合理化・単純化

- 「ら抜き言葉」:「食べれる」「走れる」

3. 共通語化

- ネオ方言:「コーヘン」ko + hen



言語変化の起こる理由

1. 発音労力の軽減(省力化)

言語内的要因

- 大阪方言:エ段への同化が起こった「ケーヘン」「イケヘン」(逆行同化) ke:←hen ike←hen
- 京都方言:イ段への同化が起こった「キーヒン」(順行同化)ki:→hin

2. 元来、複雑であった言語体系の合理化・単純化

言語内的要因

- 「ら抜き言葉」:「食べれる」「走れる」

3. 共通語化

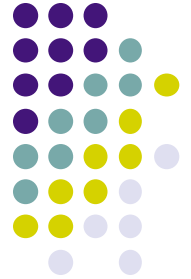
言語外的要因

- ネオ方言:「コーヘン」ko + hen



言語変容

- 共通語の形成
 - ピジン([pidgin](#)) 接触言語: 通商語として発生
 - クレオール([creole](#)): ピジンが母語化
- 2 方言使用([bidialectal](#))
 - ネオ方言: 地域方言と標準語が接触することによって生じた新たな混交体系
 - 地域方言の話し手が方言と標準語のバイリンガルになっている 中間方言([interdialects](#))
 - 方言Aでも方言Bでもない連続性を持つ方言体系群
 - 過剰般化
 - 化石化(ある方言に特徴的な要素だけが習得されて習得が停止する)



言語変容

- 海外の日本語使用
 - 移民
 - 単純化(命令文が[～しなさい]に限定)
 - 借用語(英語からの借用語・干渉「play＝遊ぶ」)
 - 古い語彙・表現の保存